

**あいであ & アイデア****建築廃材で子牛用削蹄枠—分解・持ち運びが楽に—**

長崎県南農業共済組合 中山 逸人

**はじめに**

「既存の削蹄枠は重くて積み込みなどが大変だったので、いくつかのパーツに分解し、1人でも持ち運びが簡単にできるように作りました」と話すのは、長崎県五島市で肉用牛繁殖経営（繁殖雌牛24頭、牧草地11ha、水稲2ha）を営む糸柳真治さん（39歳）。そこで糸柳さんが考案した建築廃材を利用した子牛用削蹄枠を紹介します。

**重い削蹄枠を持ち運んで削蹄を普及**

五島の肉用牛は、農業全体の産出額の29%を占め部門別第1位の基幹産業であり、肉用牛産地としてのブランド確立のため、肉用牛大学の開催など、さまざまな取り組みをおこなっています。その中でも削蹄は、蹄病の予防や肉牛の肥育効率の向上などに効果があるとされ、五島家畜市場においても、今年1月のセリ市から、出荷子牛の削蹄の実施を報告することになりました。

しかし、高齢化等により重い削蹄枠を扱えない農家も少なくありません。JA青年部西部支部の支部長も務める糸柳さんは、近隣の農家へ削蹄枠を持ち運んで貸し出すことで、削蹄作業を手伝っていました。ところが、削蹄枠は子牛をきちんと固定するために枠や台は頑強で



(写真1) 削蹄枠と糸柳さん

重く、持ち運びに適した構造ではありません。そのため自動車への積み込み作業などで苦勞が絶えませんでした。実は、糸柳さんは建築士の免許を持つ専門家。移動を安心して楽に行えるよう、分解式の削蹄枠の制作に取り組みました。

**分解式削蹄枠の制作**

安価に仕上げるため、材料は建築廃材の鉄管などを活用し、寸法などは既存の削蹄枠を参考にしました。削蹄枠の本来機能である、子牛をしっかり固定するため、基本となる外枠は溶接で接合することで堅牢とし、附属となるパーツを取り外し可能としました。床板も3分割にするなど工夫を凝らし、部品ごとの小型軽量化を図りました。

この結果、もっとも重い外枠を約70kgに抑えることができ、簡単で安全に移動可能な削蹄枠を作ることができました。削蹄枠としての機能も市販品と遜色なく、子牛にストレスを与えずに、効率よい作業ができることが自慢です。

また、特に負担がかかる箇所は補強しているため、パーツを継ぎ足せば母牛の削蹄にも使用できます。



(写真2) 分解した削蹄枠

**分解式削蹄枠の効果**

この削蹄枠は、JAごとうが主催した肉用牛生産振興大会で紹介したところ、出席した畜産農家に大変好評で、既に3件の農家が自農場用の削蹄枠を制作して活用しています。

さらに、女性経営者から「女性でも扱いやすい削蹄枠を作ってほしい」と相談を受け、さらなる改善と普及に取り組んでいます。

(筆者：長崎県南農業共済組合 五島支所)

**あいであ & アイデア**